

い。他の職アリ1匹、トゲアリの肢に咬みつく。

10. 40 p. m. トゲアリの周囲に5匹のクロオオアリの職アリが集つて、トゲアリの肢に咬みつき、或は咬みつこうとしている。

28-IX-'61, 0.05 a. m. 1匹のクロオオアリが、トゲアリの雌の前肢に咬みつき、トゲアリは、その職アリの頸部に咬みついている。

1. 40 a. m. トゲアリの雌が、1匹のクロオオアリの頸部に咬みついており、雌の周囲には2, 3匹のクロオオアリが集つて、雌の肢に咬みつき、又は咬みつこうとしている。

1. 45 p. m. クロオオアリがすぐには融和しそうにないので、トゲアリに咬みついているクロオオアリの職アリ4匹をピンセットで巣から取り出す。

29-IX-'61, 11.00 a. m. 2匹のクロオオアリがトゲアリの触角と肢先に咬みついているので、そのうち1匹を巣から取り出す。

2. 30 p. m. トゲアリが、1匹のクロオオアリのの上に馬乗りになり、その頸部を大顎でくわえている。しばらく見ていると雌はその職アリからはなれ、別の静止して抵抗しない職アリの上に乗る、その腹部に咬みつこうとしたが、すべて咬みつけなかつた。次に他の職アリの上に乗つてその頸部をくわえた。雌は職アリの頸部に咬みついて体を丸め、職アリを抱えこむようにしながら前肢を動かして下になつている職アリの体をこすり、それから自分の体を前肢でこすりという行動をくり返し行なつた。

以上のような結果で、攻撃するクロオオアリを取り除いてクロオオアリの群に受入れさせたものである。前にも述べたように、トゲアリの雌が、クロオオアリに咬みつくのは、攻撃ではないようで、トゲアリに殺された職アリはなかつた。その寄主のアリと体をこすり合わせるようにする行動は、寄生アリ独特のものと思われる。クロオオアリの職アリは、かなりトゲアリに咬みついたが、外皮の堅いトゲアリは、最小型の職アリに咬みつかれた位では、傷は受けないようであつた。

トゲアリの方は、クロオオアリに咬みつかれても殆んど無抵抗で咬むにまかせ、攻撃が激しいと長い肢で体を高く持ち上げたり、あばれて逃げたりした。

トゲアリに反抗しなかつたクロオオアリは、幼虫の周囲に集つて、静止し、非常に不活潑な状態にあるものが多く、筆者のクロオオアリの個体識別の観察の結果では、このような職アリは、生理的に若い状態にあるものと思われ、活動的で餌場へもよく出たりする職アリは、トゲアリに対して敵対的でありなかなか融和しないようである。このようなアリは比較的老齢のものが多いと思われる。

攻撃する職アリがいなくなつてからは、トゲアリの馬乗り行動は以前ほどひんぱんには行なわれなくなつたが、それでも11月中旬頃まで時々見ることが出来た(写真2)。馬乗り行動の対象となる職アリは、不活潑で若い生理状態にあるものが多く、中でも比較的体長の大きいものによく行なわれたようである。1-X-'61に液餌を与えた後で、クロオオアリの職アリとトゲアリの雌の間で3回反吐が行なわれ、トゲアリの腹部が少し大きくなるのが認められた。その後1961年内にトゲアリが反吐により給餌されるのを時々見ることが出来たが、トゲアリは、完全には巣にこもらず、餌場へ出て蜜を吸うようなこともあつた。なお、